

## 10月29日

JA3AA 島伊三治

アマチュア無線を始めて50年を数えますとその間に忘れられない日が幾つかあります。例えば免許の日、移動局免許の日、1880KHzの許可の日、160mで初めての海外QSOの日等がそれぞれです。たまたまこれらは、国内では初めてと言うこともあって覚えている様にも思います。

最近では、2001年10月29日が強烈な印象で脳裏に残っています。この日は、次の週から出掛けるSEA-NETと9M8行きの航空券を受け取りに難波まで出掛けて帰宅したのが15時30分頃だったと記憶しています。帰宅すると家内が息子(JH3AAZ)からまだ帰らぬかと何度も電話があっ

たとのことで、何事かと考えていたところに電話があり受話器を取ると「50MHzでヨーロッパが入っている」ガチャン、慌てて50MHzを聞くと最初に聞こえたのが9G5AAまさかと思

いながら一生懸命コールするも我が家の5エレ八木で

はパイルに勝てず、いらいらするばかり、念のためダイヤルを回して

みると聞こえるは、聞こえるはHF帯とバンドを間違えたのではないかと

思うくらいヨーロッパの局がひしめいているではありませんか。思わず武者震い、ここで9Gは諦め、ヨーロッパに専念することとしました。



15時52分(JST)SV1AENを皮切りにSV1AHX、UT5JAJ,9H1BT,IT9IPQ、9H1XTとCW,SSBと立って続けのQSO、途中でコンディションの変動はあったものの17時28分までの間にLZ、YU、ES,S5,9A、DL,0E,YOと12Entity24局とQSOが出来ました。

50年間のアマチュア人生のなかで、こんなことが有るのかと最高に興奮した日、それが10月29日でした。50MHzの交信Entityを数えましたらworkdですが98と50MHzDXCCに手が届くところまで来ていました。

1.8MHzから50MHzまで10バンドのDXCCが夢でしたが、1.8MHzはまだ難しいものの難関の一つ50MHzに希望の灯が見えてきました。頑張ります。

## 韓国訪問と国際YL Meeting

JR3MVF 三好京子

来年10月8日から12日にかけて韓国で開催されるYL(女性アマチュア無線家)国際大会の準備打ち合わせの為その開催と同じ時期にソウルへ行ってきました。

タイミング良く郊外でのYLフィールドデーと毎月第二日曜日に開催されるJunk Marketも覗くことができ大会のコミッティのみならず多くのハムとEye ball contactする機会にも恵まれました。

このYL国際大会は日頃無線で馴染みの女性ハム達がお互いに顔を合わせておしゃべりをしようと1991年にストックホルムに集ったのが始まりで、その雰囲気が非常に良かった為、次は日本でもやってみようかということになりました。じゃあやろう!と決めてから、開催場所は?宿泊施設は?、そして資金は?などインターネットも普及していない当時、電話での連絡を頻繁にとりながらスタートしま

した。組織も持たない3人の女性が「そんなもん出来るわけない!」と世間からの大合唱を受けているうちに何故か「ぜったい出来る、やらなくては!」との決意が固まってきました。しかしながら当時頼りになる組織は「アイハウスラジオクラブ」だけでした。クラブに相談したところ「やったら!」と快く協力していただけることになり、時期は桜の咲くころということでアイハウスホテル全室、会議室や宴会場も予約し、三人の言い出しっぺにもう一人加わり、四人構成の実行委員により本格的な準備をスタートしました。しかし実際に何人位の参加者があるか資金をどうするのか五里霧中で心配事だらけでした。「3、4人でも来てくれはったらエエが!お金は最終責任をとうろ!皆に喜んでもらえるのなら」と覚悟を決めました。

そして世界に向けて発信! 情報は地球を駆け巡り、何方がしてくださったのか各国の雑誌等でも紹介されたり国内の新聞でも取り上げられました。参加申し込み第一号はフィンランドのOH7XXからでした。

後で彼女から聞いたことですが日本のような地球の端の国へ一人で行くのは危険だからと家族に猛反対されたそうです。オランダからは母娘で、韓国からは十数人が大挙して参加することになりました。

おかげさまで催しは成功裏に終わりました。地方紙の特派員をしているOH7XXは紙上で日本のことを詳しく紹介したり、オランダのPA3CEBは即興の大阪賛歌をパーティの中で披露してくれました。

その時、韓国の女性達は何時か自分たちもこのような催しを韓国では是非やりたいと言って帰りました。その後ベルリン、スバルパード、ハミルトン、パレルモで開催され、いよいよ来年は、韓国の女性達による「YL2004」です。10年前の「YL1993 in Osaka」ではアイハウスラジオクラブをはじめ多くの方々に本当にお世話になりました。

今後もアマチュア無線を通じて世界中の人達との交流を続けたいと願っています。

88 & 73

## The 2nd Int'l YL Meeting Osaka 1993



## 2004 Int'l YL Meeting を迎える韓国のYL



## メンバーのシャック紹介 JA3AER

河内長野市の丘陵にあるシャックは、いわゆる新興住宅団地の真ん中にありますが、海拔 300m の大阪平野を見下ろすロケーションにあり、北米方向の北東からヨーロッパ方面の北西にかけて特によく開けています。米国に 10 年近く駐在して帰国したとき大和郡山の自宅が手狭に感じ、一足先に米国から帰国していた友人の紹介でここに移り住みました。当時の 1988 年頃はパブルの絶頂期に近く建売住宅も飛ぶように売れており、この家も 9 倍の競争率でしたが運よく抽選に当たって入手できたものです。

周囲の家屋がまだ建築中の間に先ずタワーをと、



ワカマツ製作所のクランクアップ式 CQ タワーを注文したところ、社長自らが配達を兼ねて建設に来てくれました。勿論土台の穴掘りとコンクリート固めはプロにお願いしてのことです。お蔭で、後から入居してきた近所の人達からは何のクレームもありませんでした。

アンテナはハイゲインの 3 エLEMENT・トライバンダーをローカルのハムたちが集って取り付けてくれましたが、せっかく出来たこのタワーとアンテナを使いこなす暇もなく、今度は英国駐在を命じられ、やむなくアンテナを外して 1990 年 12 月に英国へ赴任しました。8 年近くの英国勤務を終えて帰国し、現在使用中の Force12 の小型 6 エLEMENT 八木アンテナ C-3S を JA3JM 清水さんに依頼して米国から輸入、再びローカルのハムの協力を得て取り付けたのが 1999 年でした。以前のハイゲインに比較して受けも飛びも良くなったような感じで満足しています。ハイゲインとは同時に並べて比較はしておりませんので、これは感覚での話ですが。さて、現在のリグは FT-1000MP Mark V です。こ



れは 2001 年にアフリカのコモロ共和国から D68C のコールサインで行った DX ベディションの際に、10 台の同モデルを貸してくれたス

タンダード社とのお縁で購入したものです。英国でも大活躍してくれた IC-760 Pro は今でも健在ですが、使わないと痛むだろうと近くローカルのハムに譲ることにしました。また、米国から持ち帰ったりニアアンプ、ヒースキットの HL-2200 も全く使う機会がなくシャックに飾っていますが、これも近くローカルのハムに譲る予定です。この抜群のロケーションのお蔭で、10mH のアンテナに 200W の電力で充分楽しんでます。



## 三重県漁業無線局訪問記

JP3AZA 河田至弘

晴天の初秋三重県志摩郡浜島町にある三重県鯉鮪漁業共同組合の無線局通称三重県漁業無線局(呼出符号 JFH)を訪問し見学させて頂きました。三重県漁業無線局の通信所へは近畿日本鉄道の鵜方駅から三重交通の路線バスで約 20 分の道のりです。

訪問しましたおりにご案内頂いたのはこの無線局に勤務する JA2BON 峰本さんで設備の説明と運用状況についてお話し頂きました。

峰本さんのお話しによりますとこの無線局は三重県鯉鮪漁業協同組合に所属する漁船の船舶局を通信の相手方として運用されている無線局で三重県志摩郡浜島町の浜島漁港の突端に通信所があり、通信所から約 5Km 程はなれた海に突き出した断崖の先端に送信所があり通信所からリモコンで操作しています。通信所の設備は短波 SSB の通信卓、短波電信の通信卓 2 つ、中短波通信卓及び VHF 通信卓の 5 つの通信卓があり、通報の送受は総てこの

設備で行われているとのことでした。運用面では SSB は 500W CW は 2KW(VHF の FM については興味が無かったので何も質問しませんでした HI) で運用しているとのこと、今でも CW を使用しているのですかの質問には CW は 4MHz ~ 22MHz まで殆ど毎日運用しているとのこと、特に遠洋とのコンディションの悪いときでも CW ですと確実に情報の受け渡しが出来、相手次第ですがベテランの通信士が乗船している場合には秘話性にも優れているので結構要望がありますとのことでした。

写真ではバグキーが写っていますが、やはり CW はバグキーが主流なのでしょうかとの質問には殆どの通信士はバグキーで運用していますが人によって

はエレキーしか使えない人もいて個人もちのエレキーを持参して運用しているとのことでした。まあ、このような話を聞くとアマチュア無線も同じだな~と思いました。

何とは無しに現役時代に職場ぐるみで参加していた防災訓練などの話で盛り上がり長時間にわたり仕事を邪魔してしまいましたがあく見学を許可いただき、またご説明いただいた JA2BON 峰本さんおよび職員の皆様方に感謝いたしますと共に御礼申し上げます。

JFH にはホームページがあり興味のある方はご覧下さい。アドレスは以下の通りです。

<http://www1.ocn.ne.jp/~jfh333/>



第 2 通信卓で記念写真



超短波通信卓



通信所短波空中線



電信電話通信卓

## W7 スポケーンへ

JA3CZY 三浦 聡之

例年のハムフェア（東京）、来年はJARL総会を併設しての関西ハムの祭典（関ハム）と日本でもハムフェアはどこも大盛況ですが、ハムの本場アメリカは国が広いだけに世界一の規模を誇るデイトンを筆頭に、年中どこかでハムフェア（大きなものから小さいものまで）が開催され、どこもそれなりに大勢のハムたちが大賑わいです。今回参加したスポケーンハムフェストは米国北西部、最近はいちローの活躍で有名になったマリナズの本拠地シアトルから東へ約500km、ワシントン州の東の端、標高のある丘陵に広がる風光明媚な、人口は周囲を合わせても20万程度の静かな田舎町スポケーンで毎年夏に開催される小さなハムフェアです。何故スポケーンに、と云うとわが町西宮市の永年の姉妹都市なんです。縁があって1961年に姉妹都市提携が結ばれ、小生も1969年に西宮市長のメッセージを携へ（当時はこうするのが慣例でした）訪問しました。以来、永年にわたり小生にとっては第二

の故郷といっても良い街なんです。この辺のいきさつは別途ご紹介させて頂くとして、スポケーンハムフェストは9月27日（土）、たった一日のハムフェストしてこじんまりど開催されました。でも、一応ARRLの正式お墨付きのついた立派なものなんですよ。出展者は前日の夜から飾りつけを始め、当日は朝8時から開会にも関わらず既に7時頃から近郊のハムは勿論ですが、遠く北はカナダから、東はモンタナから、南はオレゴンから、続々とハムが車を飛ばして乗り込んできます。（田舎は早起きなんや、って片づけられないように、ハムは早起きなんです、Hi）一応、机を並べた受付があり、一般は入場券\$5。出展者は\$15。小生の場合は「講演者」（後述）と云う事で手の甲にベタンとゴム印を押されました。メイン会場は広い講堂を開放して、中央に大きなテーブルを数十個ならべ、ジャンク市の品々が色々並べてあります。周囲の壁際には各クラブのブースや、ARRL、DXCC、VEなどの受付がスラーっと並んでいます。もち、米国名物ハーベキューや、ハンバーグを売る店も数店ならんでいます。まあ、この辺はどこのハムフェアも一緒ですね。

小生が会場に入るなり、スグ旧知の連中が寄って来て「ハグハグ」の連続。これがもし若いYLならなんてよからめ事を考えるヒマもありません。ひとしきり会場内を散策して見ますと、さすが米国です、1950年代のハリクラフターズやハマーランドの製品から、コリンズ、ドレークなどがいっぱいあります。もちろんFT-101、TS-520などの日本製も多数並んでいます。値段は\$100~300位で、結構良心的でした。午後1時からいよいよ小生の出番で、案内された部屋へ行くと既に30名位の人達が待っています。まあ、半分は知った連中ばかりですから気楽なもんですが。いよいよスライドショーの始まりです。日本の各地の風景や西宮の紹介も欠かせません。肝心のハム関係では東京ハムフェアや、各地から集めた日本の代表的なハムの写真。もちろん、大型局ばかりでなく、ペランダアンテナのアパマンハムの写真も忘れませんでした。最後に阪神大震災の被災模様を加えると、全員驚愕の目で見入ってくれました。スライドショーが終わって質疑応答に入り、日本と

米国との周波数帯の違い、出力の違い、日本のローバンドで抱える近隣諸国からの混信などに話題が及びました。「米国の信号で誰が一番強いか?」「日本で誰が一番ハイパワーなのか?」など噂のコールを上げての質疑には全員大笑笑。どこも同じですね。このハムフェアの参加者は約600名だったようですが、やはり高齢化は否めず平均年齢は60歳位じゃないかと感じました。特に旧知の連中は殆どが70~80歳、中には車椅子で奥様に介添えされながらわざわざ小生に逢いに来てくれたK7EFB/Billには感激しました。たった一日の田舎町のハムフェアとは云え、ハムらしさと人間味にあふれたハムフェアで十分に楽しめました。旧知の友との再会、初めて逢う友、ハムフェアはやっぱり楽しいです。参加しないとこの楽しみは味わえませんものね。



大阪国際交流センターラジオクラブ

JI3ZAG

Web:<http://ja3.net/ihouse>

Newsletter

[http://www.ja3.net/ji3zag\\_nl](http://www.ja3.net/ji3zag_nl)  
会報を自由にダウンロードすることができます

ロールコール

毎週土曜日 9:00JST@14.160MHz

月例会

大阪国際交流センター  
毎月第2金曜日